

ペーパーレス校正のはじめ方 PDF校正マニュアル



株式会社 ダンク



はじめに

急速なペースでデジタル化が広がり、さまざまなシーンでペーパーレス化が進んでいます。校正の世界でもペーパーレスが前提の案件は増えています。

そこで重要となるのがPDFでの校正です。これまで出力紙前提で校正されていた方も多いと思いますが、PDFで校正するようになった途端ミス発生…は避けたいですね。

本マニュアルでは、**ここ数年ダंकが取り組んできたPDF上で行う校正方法をまとめたもの**です。最初は戸惑うかもしれませんが、紙と比較して**PDF校正の方が効率的で、かつコストダウンにもつながる**メリットがあります。PDF校正を導入したいけど二の足を踏んでいる方、本マニュアルを参考にいただけると幸いです。

対象となる方

冊子や資料等の制作を他社に依頼する制作担当者 など

このマニュアル で得られること

Adobe Acrobat Readerを使用した、PDF原稿の校正・赤字指示の方法を知ることができます

活用シーン

制作会社から受け取った修正原稿のチェックや赤字指示を入れるとき

注意点

本資料は、Adobe Acrobat Readerの旧インターフェース画面で解説しています。新インターフェースをご使用の方は、旧インターフェースに戻していただくことをおすすめします。旧インターフェースへの戻し方は、次ページをご参照ください。



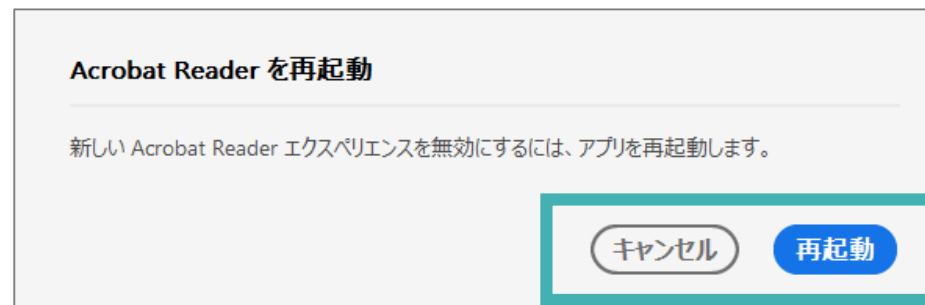
参考

旧インターフェースへの戻し方

① メニュー＞新しいAcrobat Readerを無効にするを押下する



② 表示されるポップアップの案内に従って再起動する

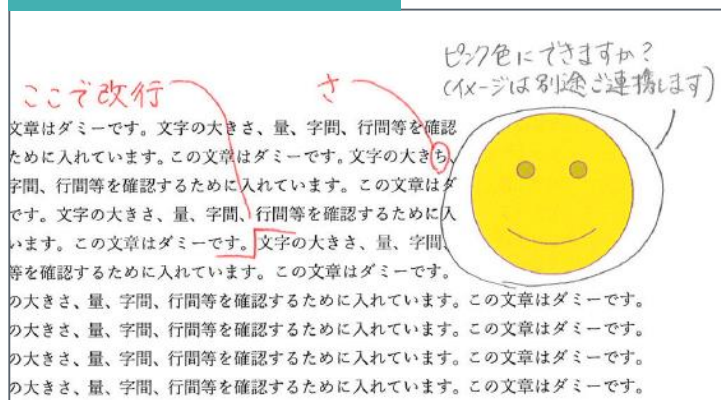


本マニュアルを実践することで、こんな校正結果が作れます！

今まで手書きしていた校正指示を
PDF上に書き込みます



Before(手書き)



After(PDF)

ここで改行

さ

~~この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大き^ち、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。~~

[illegible]

ピンク色にできますか？ 以下のようなイメージです



文章はダミーです。
文章はダミーです。
文章はダミーです。
文章はダミーです。
文章はダミーです。
文章はダミーです。
文章はダミーです。



もくじ

事前準備

05ページ

まずはAdobe Acrobat Readerのツールバーに必要なツールを設定します。

- Adobe Acrobat Readerで使うツール・・・・・・・・・・・・・・・・・・06ページ
- ツールバーにツールを追加する・・・・・・・・・・・・・・・・・・07ページ

作業 1 修正チェック

09ページ

赤字が正しく直っているか修正チェックをします。チェック忘れがないように、赤字と修正箇所にチェックを入れます。

- 赤字をチェックする・・・・・・・・・・・・・・・・・・10ページ
- 正しく修正されていたら校正紙を消し込む・・・・・・・・・・13ページ
- 素読みをする・・・・・・・・・・・・・・・・・・14ページ

作業 2 赤字を入れる

15ページ

赤字が直っていない場合は赤字を入れます。わかりやすい赤字を入れるコツを紹介します。

- 赤字を入れる・・・・・・・・・・・・・・・・・・16ページ
- 赤字を入れるときの注意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・18ページ

作業 3 あおり検版

21ページ

赤字が入っていない箇所で間違いが起きていないか（指定外変化がないか）あおり検版でチェックします。

- あおり検版・・・・・・・・・・・・・・・・・・22ページ

最後に・・・・・・・・・・・・・・・・・・24ページ

事前準備

- Adobe Acrobat Readerで使うツール
- ツールバーにツールを追加する

Adobe Acrobat Readerで使うツール

Adobe Acrobat Readerのコメントツールを使って校正を行います。

使用するツールには、以下のような種類があります。

これらのツールを使って校正し、わかりやすい赤字指示を入れます。



テキストをハイライト



引き出し線付きテキストボックス



手書きツール
(描画ツール)



線、長方形、折れ線ツール

本資料で紹介するツールのほかに、下記のものもあります。
便利な機能ですので、慣れてきたら使ってみてください。

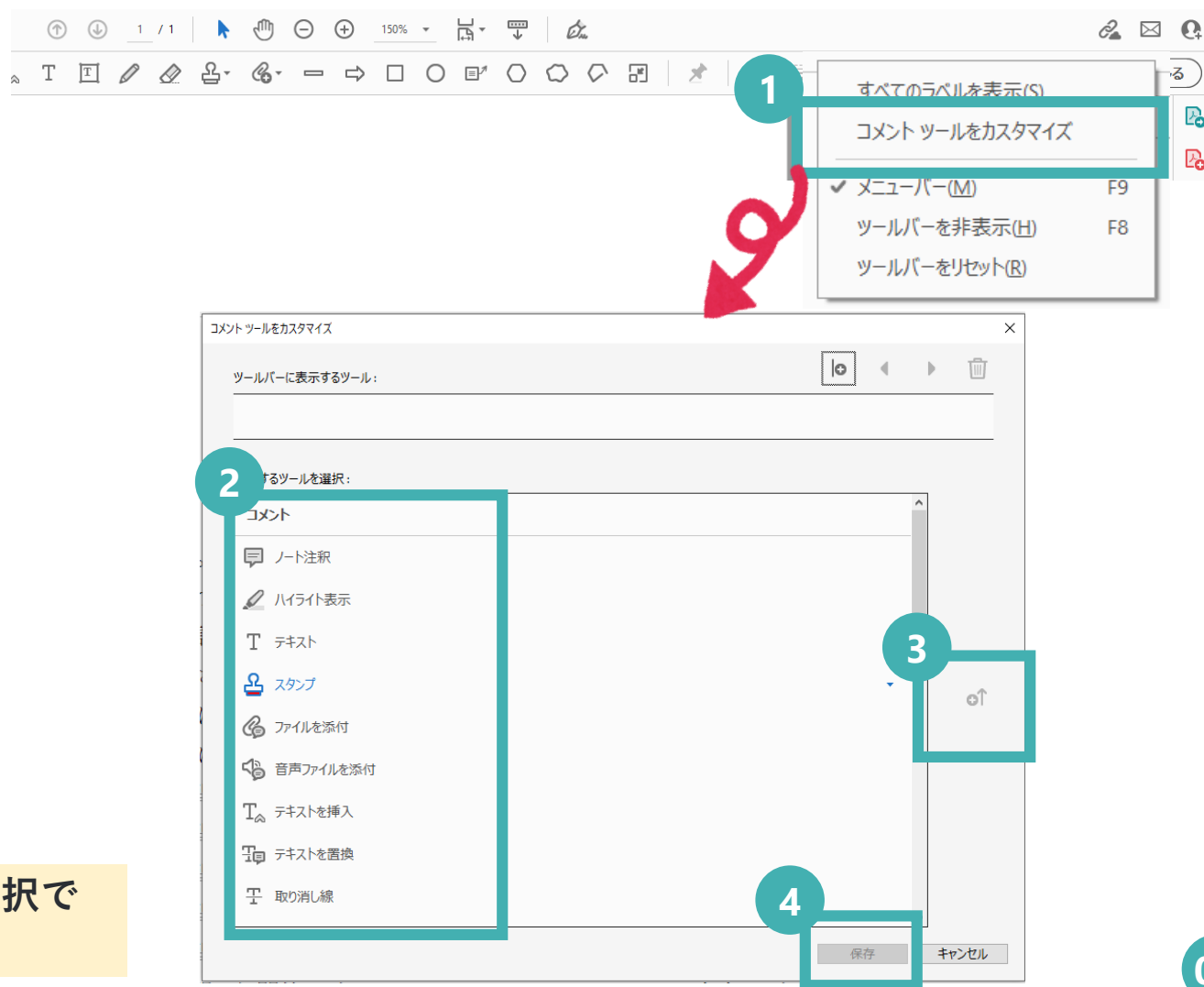


ツールバーにツールを追加する

ツールバーをカスタマイズしてツールを追加します。

- 1 ツールバー上で右クリックして
「コメントツールをカスタマイズ」を押下
- 2 ポップアップウィンドウが表示されるので、
06ページで紹介したツールをひとつずつ選択
- 3 ひとつ選択するたびに、⊕マークを押下
- 4 最後に「保存」を押下

これで必要なツールは、いつでもツールバーから選択できるようになりました。次の章から校正実践編です

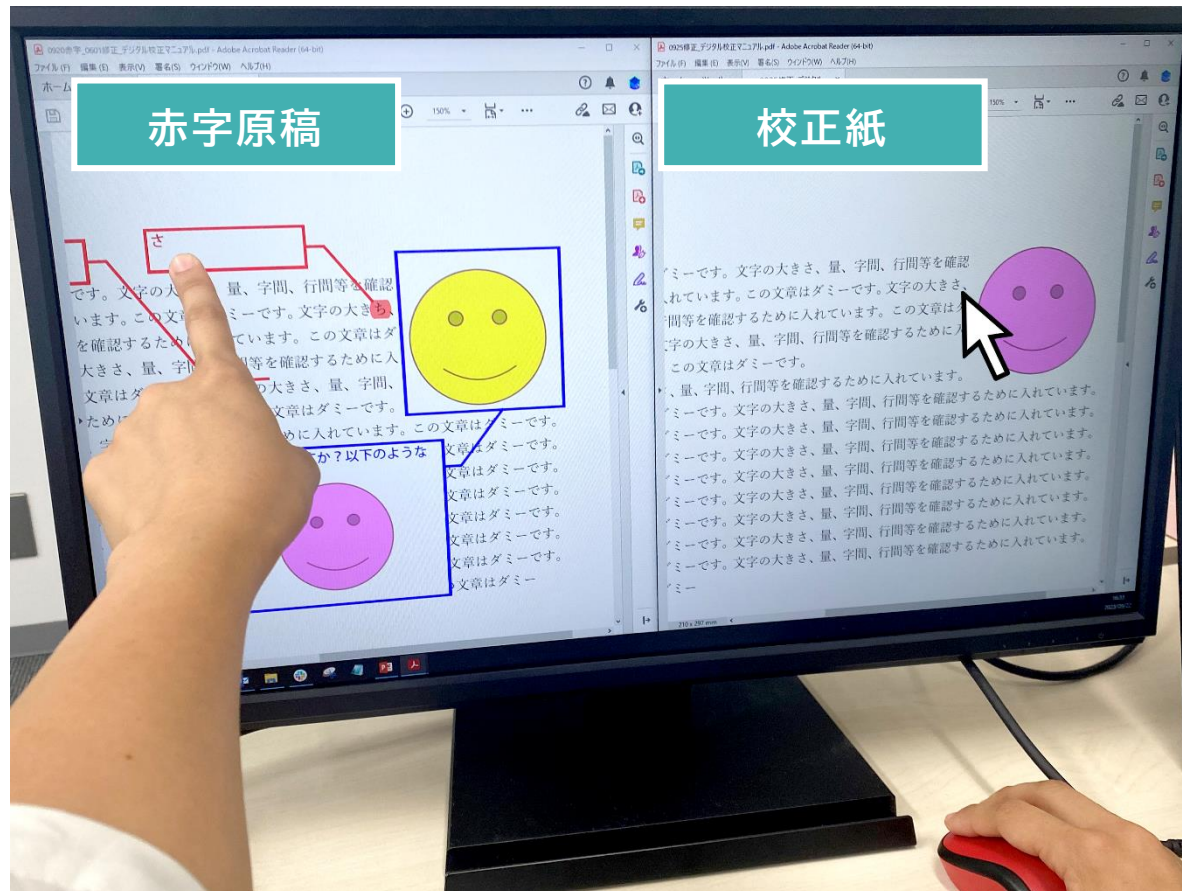


作業1

修正チェック

- 赤字をチェックする
- 正しく修正されていたら校正紙を消し込む
- 素読みをする

まずは赤字が正しく修正されているかを確認します。
赤字原稿と校正紙の**ウィンドウを並べて、指差しでチェック**します。

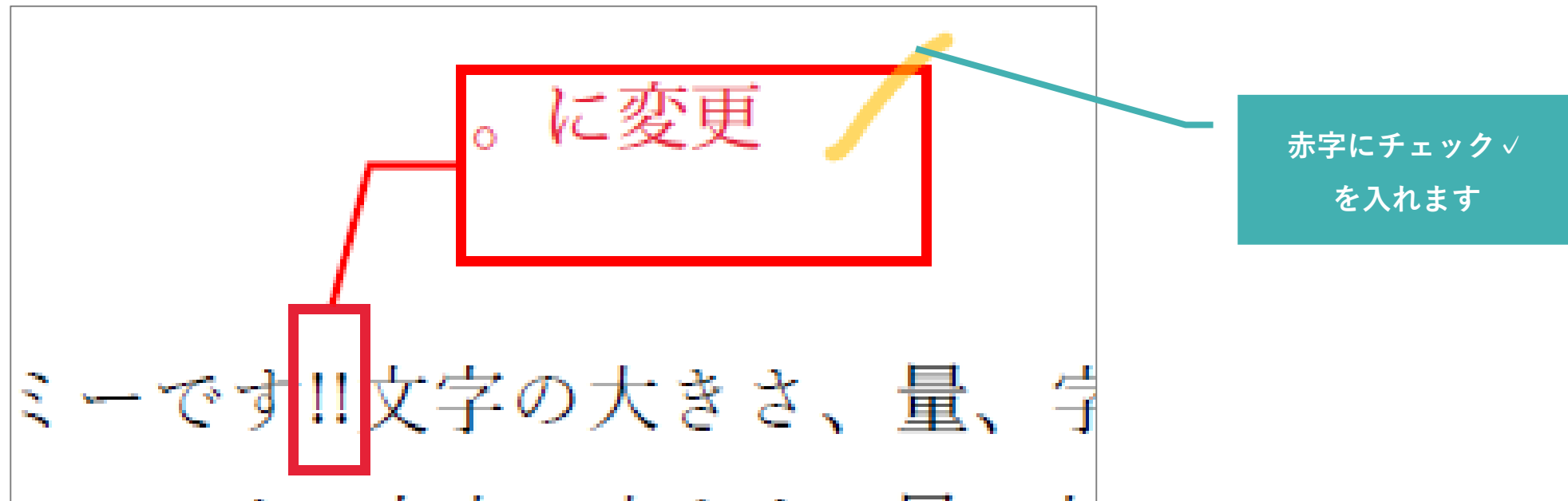


赤字原稿と校正紙の
ウィンドウを近くに並べます。

指先とマウスポインターで赤字原稿と校正紙
を追って、一文字ずつしっかりチェック。

赤字のチェック漏れがないように、 **描画ツール** で確認した赤字にチェックを入れます。

※このとき、描画ツールは不透明度60%に設定します（次ページ参照）





赤字をチェックする（チェックするときの注意点）

作業1 修正チェック

描画ツールは不透明度60%に設定します。
不透明度を下げると、文字と描画が
重なっても文章が読みやすくなります。

○不透明度60%

です。文字の大きさ、量、字間、
です。文字の大きさ、量

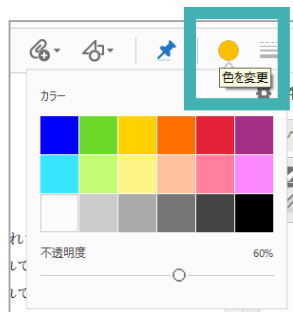
不透明度が高いと
文字が読みづらい

△不透明度100%

不透明度の換え方

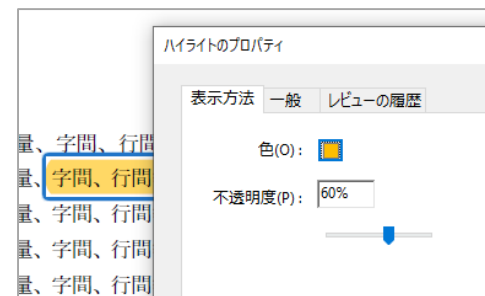
色と不透明度の換え方は、2つの方法 があります。

方法1



ツールバーの
「色を変更」から変える

方法2



1. 描画部分を右クリック
2. 「プロパティ」から
変える

正しく修正されていたら校正紙を消し込む

作業1 修正チェック

赤字が正しく直っていることを確認したら、**黄色（不透明度60%）**で消し込みます。

修正ミスや修正漏れがあった場合は赤字を入れます→ **作業2** 赤字を入れる 参照

消し込みには、基本的に  **テキストをハイライト** を使います。



シーンによって使用ツールを切り替えると精度・効率がUP！

9,876 円
5,432 円



描画ツール

数字の確認は、
描画ツールで慎重にタテ消し

この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。



長方形ツール

広範囲を消し込み

赤字原稿のチェックが終わったら、**全体を通した整合性などの確認のため**、校正紙を素読みします。
このとき、読んだ箇所を見失って、作業漏れがないようにチェックをつけます。

この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行
この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行

読んだ箇所には



描画ツール

(不透明度60%) で小さくチェックをつけていきます。

作業2

赤字を入れる

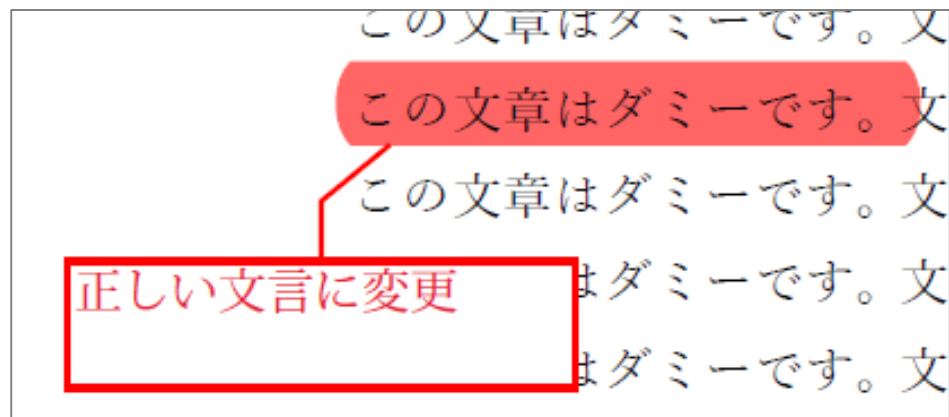
- 赤字を入れる
- 赤字を入れるときの注意点

作業1で修正ミスや修正漏れがあった場合は、修正が必要な箇所に赤字を入れます。
以下のツールを主に使用します。

引き出し線で赤字を入れる場合



引き出し線付きテキストボックス



引き出し線で赤字を入れるときは、引き出し線付きテキストボックスを使用します。

赤字を入れる場所を示す場合



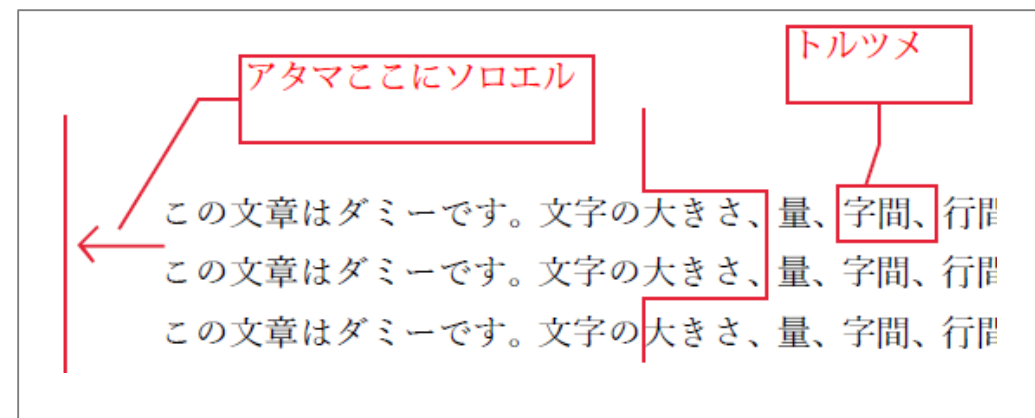
線ツール



折れ線ツール



長方形ツール



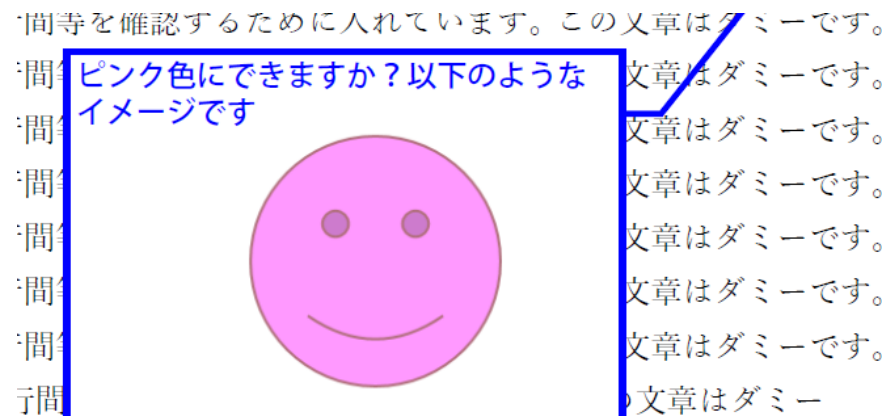
特定箇所を囲んだり、校正記号を入れたいときは上記の図形ツールを使います。

ちょっとした工夫で、わかりやすい赤字を入れることができます。

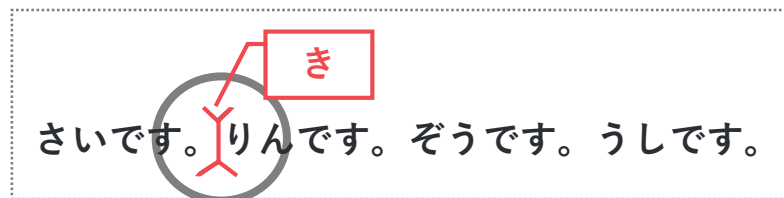
PDF上に参考画像を貼り付ける

画像を貼り付ける方法

- ① 画面キャプチャをクリップボードにコピー
(Winキー* + Shift + S)
* Windowsをご使用の場合
- ② 矢印ツールを選択した状態で貼り付け (Ctrl+V)

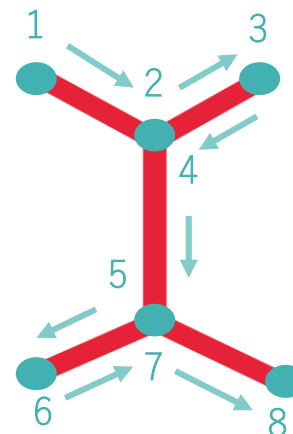


赤字の挿入記号を作る



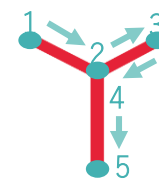
「文字の間に新たに文字を入れる」指示を入れるとき、この挿入記号を使うと勘違いによる修正を防げます。

●挿入記号の作り方



- ①  折れ線ツール を選択

- ② 左の順番で  を書く



手間だったら、Y字形でも代用できます



行間等を確認する

「ノート注釈」ツールや、描画アイテムに
コメントをつける機能は使用をオススメしません。
指摘が目立たず、見落としが発生する恐れがあるためです。




指摘が表示されない、目立たない



見た瞬間に赤字が目に入る

この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。

マウスオンしないと、
指示内容が表示されない



DA-01
ビ
(イ



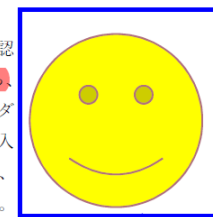

マウスオンしないと、
指示内容が表示されない

ここで改行

さ

この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。この文章はダミーです。文字の大きさ、量、字間、行間等を確認するために入れています。

ピンク色にできますか？以下のイメージです



ピンク色にできますか？ 以下のようなイメージです



文章はダミーです。
文章はダミーです。
文章はダミーです。
文章はダミーです。
文章はダミーです。
文章はダミーです。
文章はダミー



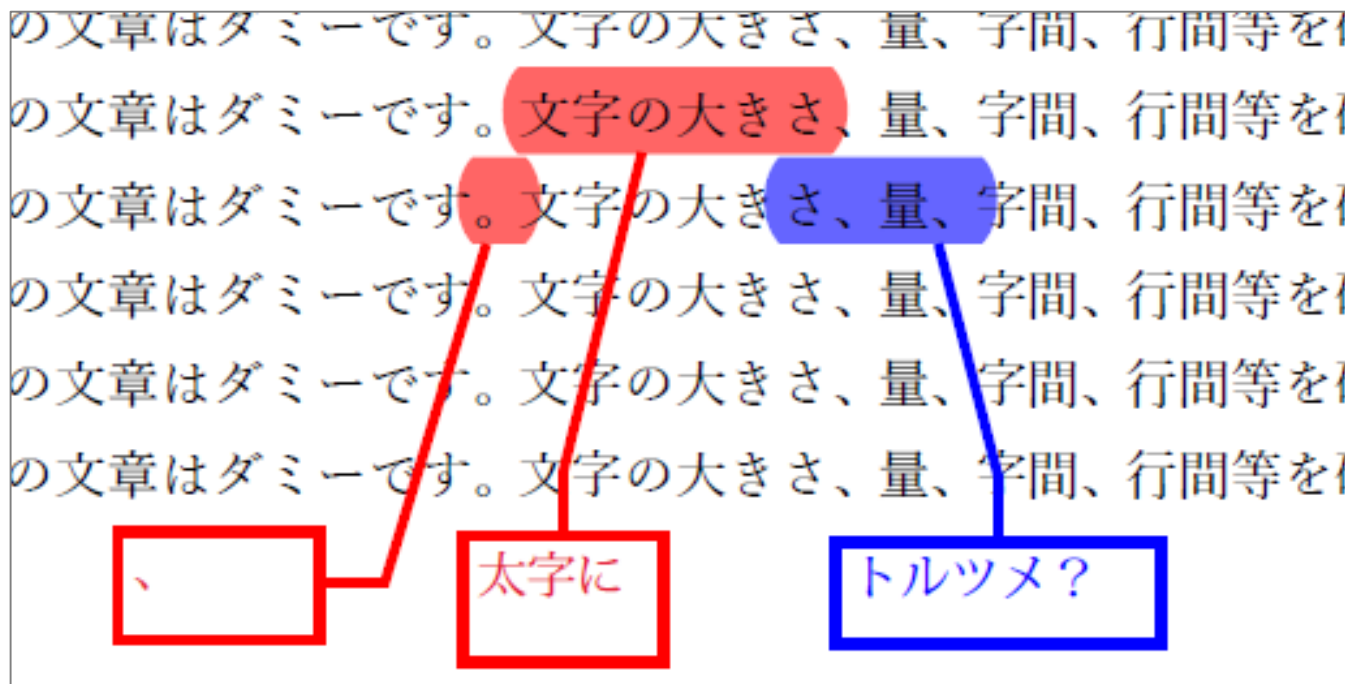
赤字を入れるときの注意点②

作業2 赤字を入れる

指示入れに使用する**記号や文字の色は統一**しましょう。
記入者が複数人いる場合などの誤認防止や、視認性確保のためです。

ダנקでは以下のルールで統一しています。

- 赤字：赤フキダシ&赤文字、
 - 確認事項や申し送り：青フキダシ&青文字
- 指摘の内容、種類によって色を使い分けます。





赤字を入れるときの注意点③

作業2 赤字を入れる

テキストボックスを配置するとき、次のポイントに気をつけましょう。

枠内のテキストが見切れないようにする



文字切れ発生

文字のサ

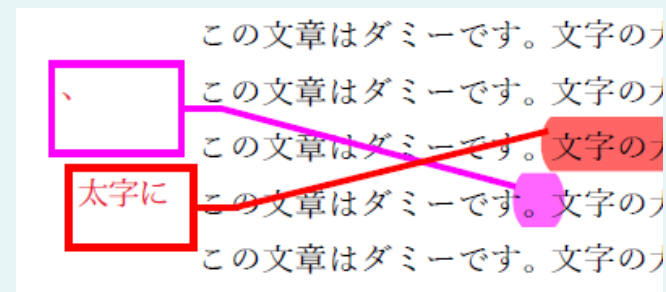
です。文字の大きさ、量、字間、
です。文字の大きさ、量、字間、

文字のサイズ

です。文字の大きさ、量、字
です。文字の大きさ、量、字

文字が見切れていると、誤った修正をしてしまう
可能性があります

できるだけ、引き出し線が交わらないようにする



交差する場合は、上図のように
テキストボックスの色を変更してわかりやすくします



指摘が多くなって書ききれない場合は、別紙をつけるなどの工夫をします。

見づらい校正結果は見落としのもとになるので、見やすさ・わかりやすさを心がけましょう。

作業3

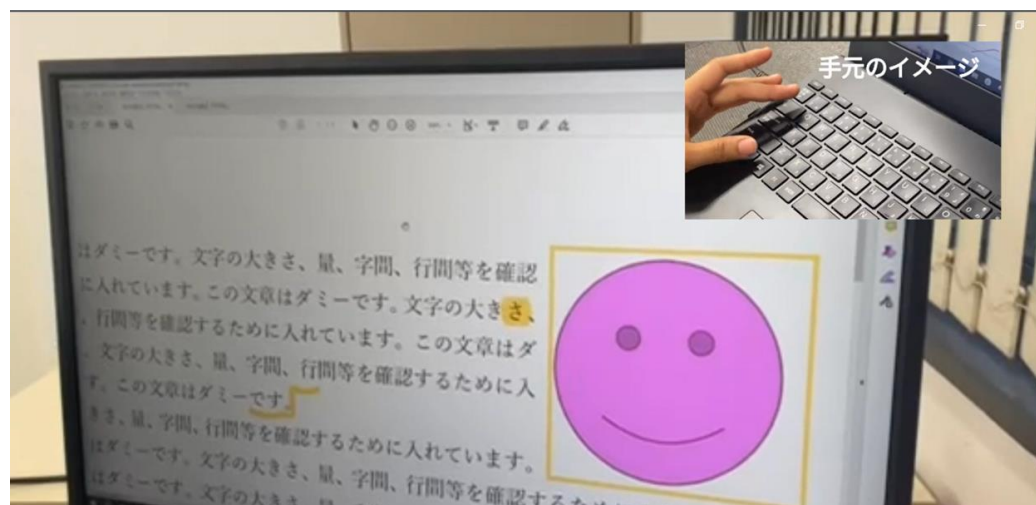
あおり検版

- あおり検版

最後にあおり検版を行います。

あおり検版とは？

赤字を直すことで、赤字以外の箇所に思わぬ間違いが発生することがよく起こります。
それらをチェックするために、「最新原稿」と「修正前の原稿」で紙面全体を確認する必要があります。
その作業を「あおり検版」といいます。



- ① 「最新原稿」と「修正前の原稿」をそれぞれ開いてタブで並べます
- ② 開いた2つの原稿を、手のひらツールで同じ位置に合わせます
- ③ 「Ctrl」＋「Tab」の連打で、2つの原稿を比較。赤字がないのに変わっている箇所がないかチェックします

→次ページで動画でも解説しています



あおり検版で使うショートカットキー

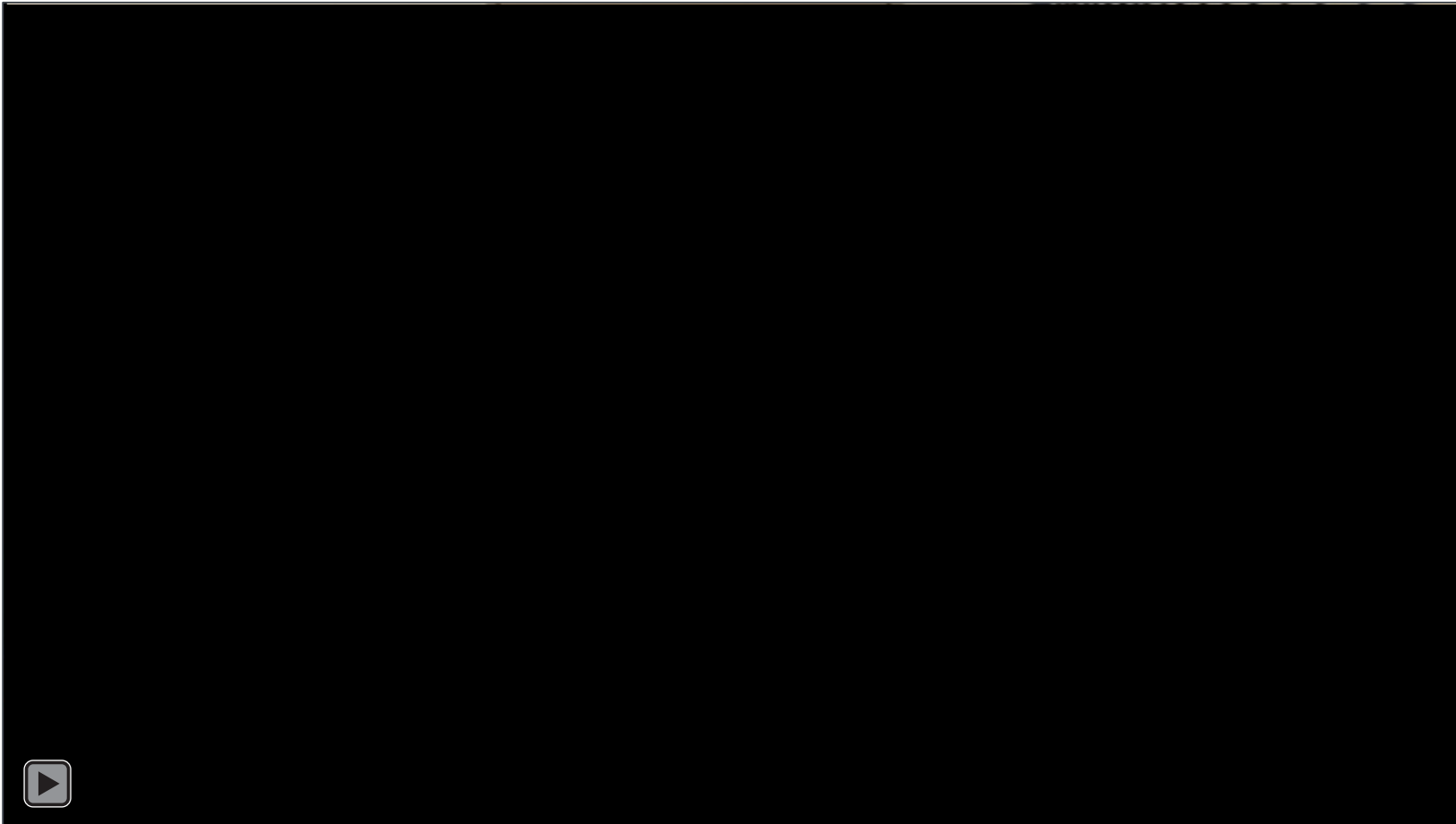
- ・手のひらツール：スペースキー＋ドラッグ
- ・拡大縮小：Ctrl＋マウスホイール
- ・タブの切り替え：Ctrl＋Tab



手のひらツール を使うワケ

画面内の移動に手のひらツールを使うことで、スクロールバーやマウスのホイールを使用するよりも細かく、自由に移動しやすくなります。

前ページの作業方法を動画で解説



最後に

作業が終わったらファイル名を変更しましょう！

校正が完了したら、ファイル名を変更します。作業前のファイルと作業後のファイルを混同しないためです。

例 1215田中確認済_元のファイル名

作業完了日 + 作業名 + 確認済_

PDF校正は、操作に慣れてしまえば紙面で校正するよりも効率的に作業することができます。

しかし、便利な反面、画面の見づらさや、画面の拡大縮小を繰り返すことによってページ全体の確認がおろそかになる恐れもあります。

全体を俯瞰して確認しながら進める、しっかり見直すなど、校正するときに気をつけるポイントは、紙面の校正と変わりません。

本マニュアルを活用していただき、デジタルの便利な機能を味方につけながら高品質な校正を目指しましょう。

